

議事録

件 名：令和4年度第2回さぬき市地域公共交通会議

日 時：令和5年2月16日（木）14時00分～16時00分

場 所：さぬき市役所3階301・302会議室

出席者：【委員】紀伊会長、尾崎委員（会長職務代理者）、上野尚昭委員、小倉委員、
白山委員、元山委員、頼富委員、天羽委員、溝渕委員、藤井委員、岩崎委員、
鹿児島委員（代理）、佐々木委員、木村委員、真部委員、藤本委員、前田委員、
松本委員、上野智弘委員、宮崎委員、石井委員
【市】都市整備課 新納課長、津村課長補佐、藤井主査

傍聴者：0人

配布資料：資料1 【さぬき市地域公共交通計画】各種事業の進捗状況報告
資料2 【さぬき市地域公共交通計画】各種事業の進捗状況報告補助資料
資料3 【さぬき市地域公共交通計画】令和5年度の取組について
別紙 バスブック配布時アンケート概要抜粋、全体でのアンケート、お出かけ支
援聞き取り調査結果、アンケート用紙、お出かけチラシ、モーダルミック
ス実証実験結果、前回議事録

【次第及び概要】

1 開会

2 会長挨拶

3 議事

（1）令和4年度さぬき市地域公共交通計画取組実績について

会 長：議題1「令和4年度さぬき市地域公共交通計画取組実績について」ですが、事前を送
付していた資料に関する内容を事務局が簡潔に報告し、その後に、関係委員から報
告をお願いしたいと思います。それでは、事務局からお願いします。

事務局：＜報告＞ ※資料1、別紙、資料2

会長：各事業で複数の委員が関係くださっていると思いますが、時間の都合上、代表と思われる方に、感想や、今後の計画などについてご発言いただきたいと思います。
事業順にご発言いただきたいので、事業１のモーダルミックス、事業９の住民アンケートと事業１２の外出実験、事業１６の出前講座の順でそれぞれお願いします。
それではまず、事業１からお願いします。

委員：私の方から、ＪＲ四国のモーダルミックスの実証実験についてご報告させていただきます。こちらについては、さぬき市さん、大川バスさん、香川県さんと関係者の方々のご協力により実証実験の方をさせていただきました。簡単に実証実験の概要を説明させていただきます。実施期間が１０月２２日から１月３１日までの約３ヶ月実施しました。対象路線については、さぬき市コミュニティバス、志度-造田-多和線で行いました。実施の内容ですが、ＪＲ駅隣接バス停留所、志度駅と造田駅、そこからＪＲに乗り継ぐお客様に対しまして、調査票（簡単なアンケート）を記入いただくことを条件に、バス運賃の減額をいたしました。平日が２００円のところ１００円、土日祝日が５００円のところ２００円でご利用いただくということでございます。これについてバスの減額分の差額はＪＲが支払うということですが、こちらについては香川県の補助金を活用させていただきました。利用実績ですが、延べ１１５名の方にご利用いただきました。大窪寺が紅葉シーズンということで、１１月が５４名で、ご利用が多かったです。実績の簡易集計はこちらで、円グラフになっておりますけれども、ご利用の曜日については土日祝日、方面別については、志度・造田から大窪寺に行かれる方が４０名、大窪寺から造田・志度に向かわれる方が７５名でした。志度駅からの方が利用が多いかなと思っていたのですが、造田駅のご利用も丁度半分くらいございました。発着別については、大窪寺発着が大きく割合を占めております。乗継駅についてそれぞれどちらの方面からご利用されているか、志度駅・造田駅ともに、ほぼ高松方面、高松とか屋島とかのご利用が多かったです。自由意見ということで、多かったのがバスの乗務員の対応が丁寧、乗務員に対するお褒めの意見というのがかなりありました。運賃が安すぎる、適正な値段にしてはどうかという意見もありました。ご利用が多かったのが大窪寺周辺から志度方面のご利用で、片道利用が多かったです。行きはおそらく歩いて大窪寺を目指されて、帰りはコミュニティバスを利用して戻ってくる方が多かったというところでございます。簡単ではございますが、私の方からは以上です。

会長：ありがとうございました。それでは続きまして、事業９と１２をお願いします。

委員：都市整備課のお力を借りまして、南川地区において移動支援のサービスを実施しております。去年１年を振り返りますと、３月末にタクシーとコミバスを利用して、

前山で花見をしています。それから7月にモーニングを食べに行こうかと予定していたのですがコロナの影響で中止になりまして、11月に地域のボランティアの方の車に乗って大窪寺へ紅葉狩りに行き、帰りに五名ふるさとの家でお茶をいただきました。先週になりますが、本命であるお買い物ツアーで対象者を集いまして、免許を返納した方、またはもうすぐ返納する方を4人選びまして、寒川町のビッグへ買い物に行って来ました。定例会の時に、タクシー業者さん、三協タクシーさんと大川タクシーさんに来ていただいて、色々お話を聞いたのですが、やっぱりタクシーを利用する、これが一番ベストな方法だとは思いますが、時間的な問題があったり、費用の問題があったり、手軽さの問題があって、ちょっと定期的には難しいのではないかと問いが出ております。11月に大窪寺に行った時は、おとなの遠足と題して行ったのですが、地域のボランティアの方だったのですが、家族を乗せるのとは違って緊張する、といった問題がやっぱりあるのではないかと、いうところでございます。2月にビッグへ買い物に行ったのは、自分の買い物に行ったのは久々という方が4人中3人おりまして、カートを押しながら色々買い物をしていただきました。地域の人にも活動が浸透してきておりまして、その結果が、別紙R4-3 考案しているお出かけ支援があったら利用しますか、で、約50%対象者が「はい」と答えてくれていて、ほとんど80歳以上の方ですが非常に高いです。ただ、その反面、運転している人の平均年齢が83歳、非常に高齢ですけど、そのうち80%の方が運転に自信があるとされていて、難しいところであります。移動方法については、地域のボランティアの人に送迎して欲しいという人が多いです。アンケートを行った結果、高齢者の方の生の声が聴けたのではないかと思います。感じたのは、人の世話になるのは嫌だ、自分でできることは自分でする、できなくなったら施設に入ります、という方が何人かいらっしゃいます。日本人のいいところであり、悪いところでもあるのか、小さい頃から自分のことは自分でしなさいと教えられているようです。これからは人に助けてもらうことも悪いことではないのだよ、ということを少しずつ意見していきたいと思っています。もう1つは南川の人、親子関係が非常によろしいです。日曜日に高齢者を訪問するのですが、大抵は息子さん娘さんがいて、お話をされたりとか、天気の良い日には外でお散歩などをしています。そういうのがあるのでお買い物サービスとか医療サービスとかがすぐに必要はないようです。良い事とは思いますが、年齢を見ていると65歳以上の方が非常に多く、60から65歳までの間で定年退職した人は極端に減っているので、今のうちに協力して移動サービスなどを推進していきたいと思っています。以上です。

会長：ありがとうございました。続きまして、事業16についてお願いします。

委員：日頃から交通関係でお世話になっております。1月27日に実施した交通事故防止教室について説明させていただけたらと思います。交通関係でさぬき市にとって良かったのは、令和4年中に交通死亡事故が0件、さぬき市発足以降、令和2年に次いで2回目ということで、2月1日にさぬき市長尾交通安全協会主催の下で500日達成キャンペーンもすることができました。しっかり公共交通機関を利用いただいて、交通量の抑制ということも考えて、都市整備課とも令和3年度から一緒に取り組みをさせていただきました。残念ながら交通事故の件数につきましては、去年・一昨年と、概ねさぬき市内では1100件前後で、全体的に減っていないのが現実でございます。ただ、この1月27日、社協さんの協力も得て実施した交通教室、1回しかできませんでしたが、都市整備課とも相談して、できるだけいろんな体験をしてもらおうということで、話しをする時間を2人で10分ぐらいずつにして、危険予知トレーニングとか、歩行シュミレーターとかを用意しまして、自分で自分のことを知ってもらおうという体験をさせていただきました。非常に好評だったということで、来年度以降も是非公共交通機関も併せて取り組みを進めていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

会長：ありがとうございました。只今、3名の方からお話がありましたが、皆さんから質問やご感想などありましたらお願いします。

令和4年度、しっかり色々な取り組みをされて、大変興味深く拝聴いたしました。報告でいろんな情報が集まってきているところでありますので、結果を精査するなりして、検討してご利用していただけたらいいかと思います。JR四国さんのお話で、もう少し値上げをしてもいいのではないかと意見もありました。市民の方、外部の方かも知れませんが、市の政策としてこういったところにお金を当てていけばよいのか、少し分析してみるのもいいのかなと思う次第です。

委員：本当に沢山の計画を作り、資料1の方で20項目挙げていただいていたいて、それぞれ継続なり、実施なりに取り組んでいただいておりますので、この調子で是非来年度以降も継続して取り組んでいただければと思っております。以上です。

(2) 令和5年度さぬき市地域公共交通計画取組予定について

会長：ありがとうございます。続いて、議題2「令和5年度さぬき市地域公共交通計画取組予定について」に移ります。事前の配布資料を見ますと、令和5年度の取組計画の中で、時間をかけて議論するべきは、事業1と2に関わる「定時定路線とデマン

ドのミックス運行実験」に関してだと思われますので、まず事務局から資料 3 の内容に絞って説明をお願いします。

事務局：＜説明＞ ※資料 3

会長：ありがとうございました。令和 5 年度 of 取組について事務局案をもとに、来年度以降の大きな方向性を議論していきたいと思います。詳細の議論は来年度以降になると思いますが、取組を継続していくためのイメージづくりは必要だと思いますのでよろしくお願いします。事務局からは自信がないとお話しされましたが、答えのある話ではございませんので、本会議を通じて見出していくものと理解しています。いろいろな観点からのご意見をお願いいたします。いかがでしょうか。全体にざっと説明しましたので、少し論点を分けて議論していくのが良いかと思います。視点としては 3 つ、1 つめは「スケジュールについて」、2 つめは「令和 5 年度に取り組みようとしている実験について」、3 つめは「その他について」がよいのではないかと思います。それでは 1 つめの「スケジュールについて」、ご意見ありましたらお願いします。文理大の話がいろいろ出ておりますが、移転時まで待ってしまうと何の対応もしないのかという気がします。皆さんいかがでしょうか。

委員：文理大の件は、地元の大家さんが危惧されているのですが、高松市内にワンルームマンションがふんだんにあるかということ、無いんですよ。細かく分析していただかないといけないのですが、例えば、15～16 分かけてというと、坂出に住んで高松に行くということもできるんです。もしくはもう少し南に下って、琴電エリアの沿線で家を借りるというのも可能です。家賃の目線でいうと、志度は安いです。昔から、志度で住みながら高松の文理大に通うという選択肢で何か手立てはないのか、というような議論は少なからずあるんです。大家さんからすると、学生が全員出られて家賃収入ゼロになると、箱物が無用の長物になって大変困るので、大家さん側に、コミュニティバスを利用して、JR で志度から高松へ行くということに対して、何かプラスアルファをするというようなことについて議論してもいいのではないかと思います。どれぐらい学生さんの選択の中にヒットするかということは全く分からないのですが、ワンルームマンションの経過で話せば、昔は 5 万数千円～6 万円弱といった物件について、古くもなっているもので、2 万円台～3 万円前後くらいで家電製品を全部つけるとか、敷金も礼金も全部もつとか、そのような変遷できているので、例えば一部交通費の負担を家賃の中に盛り込むような形で、1 つの案として、この 1 年の中で一度議論してみるというのも悪くはないかなと思いました。もう一点、うちの母親に免許を返納してはと議論した時に、危ないから、というだけではなくて経済性の話をしました。2 年に 1 回車検をしているようでした

し、毎年自動車税を払います。それに保険をかけて、実費ガソリン代が必要です。これを全部合算してみると、結構な回数、タクシーに乗れるんです。でも、タクシーを使うとなると、勿体ない、となる。けれど、車を所持して2年に1回車検をして、自動車税を払って、保険をかけるということは、車に乗る必要性があるからといっても、それが本当に適当かどうかという議論にはならない。経済合理性の中で、免許の返納、もしくは、コミュニティバスを使うということを考えてみる。1回の乗車運賃をどれくらい下げるのか、ではなくて、もう少しサービスを充実するという考えの中で、どれくらい受益者に負担してもらうべきか。負担が増えたとしても、それは実は、車を持っていることに対する2年間の経済的負担に比べれば（負担が）軽減されていて、しかも利便性は確保できている。ただしその利便性は、毎日買い物に行くことは難しいかもしれない。2日に1回になるのか、3日に1回になるのかはわかりませんが、自分の足として運行することに対してのニーズとしては十分満たしうるかどうか。行政が全てを負担して、しかも運賃を下げて、何してかにして、というのではなくて、もう少し比較的に議論していく必要があるのではないのでしょうか。車に乗っている人が、車に乗っているということに対する維持コストを考え、これをどう付け変えていくかという議論を少し入れてもいいのではないかと思います。これからは、車ばかりでは現状は成り立たないので、検討してはどうか、との感想を持ちました。以上です。

会 長：ありがとうございます。事務局から何かございますか。とても良い意見だと思いました。

事 務 局：この間、さぬき警察署と一緒に乗り方教室をした時に、「自動車って、実は安くないんだよ。」と交通課長が紹介していました。ただ、自動車は機動性があるので、まずは公共交通に慣れていただくためにも、安全に行ける近くのバス停の駐車場までは自家用車で行って、そこから遠くに行くのはバスだったり、鉄道だったりを使いませんか、ということを推進しているところです。今後、運賃の話をしていかないといけなくなった時には、先ほどお話いただいた委員の視点を大事にしながら、安ければ丸く収まるというものではないということも視点において、運賃設定をしていきたいと思っています。モータルミックスの実験でも、運賃を安くして、市の財政が圧迫されて、減便したり無くしたりするぐらいだったら、少し高くしてでも負担するから、バスを残して欲しいというご意見をいただいておりますので、そのような考え方を利用する側もお持ちなのだと考えながら、この会議での議論を踏まえていろいろなことを決めていきたいと思っています。

会長：ありがとうございます。最初のお話で、住む方と交通の関係、住む方のニーズをきちんと分析する必要があるというご意見もその通りだと思います。交通だけで考えられる話ではございませんので、そこは各所連携してほしいところであります。固定型の交通だと、どうしても費用は固定化してしまうので、乗る人が多少増えても減っても費用としては変わらないところがあります。上手い費用の取り方、最近ではサブスクとか、決まった回数が乗れるみたいなものとか、いろいろあると思いますので、実験の中で、どういう料金・運賃の取り方をすると皆さんが喜んでくれるのかを含めて考えていこうと思うところであります。

委員：先ほどの住まいの件ですが、最初に徳島文理大学の移転に際しては、大変申し訳ないことでありますが、特に都市整備課とは、この会が立ち上がってから時刻表を作るまで、1分、2分の移動を細かくお願いして、聞いてもらいながら進めていって令和2年11月1日から実証運行が始まって、その1か月半後の発表ということで、非常につらい思いをしたのですが、本学が移っても、運賃補助については保証できないですが、ラッピングの方は別途考えさせていただきたいなと思っております。本学が正式に発表していることがいくつかございまして、全てが高松駅に移ります。人も物も移ります。ただ、こちらの施設は残します。全て残しますので、さぬき市さんを始めいろんな所に跡地の利用については、いろいろな提案をいただきたいと話をさせていただいております。更に、課外活動、部活動についてはこちらの（さぬき市）キャンパスを使わせていただきますということで、学生がどのような人数になるかはわかりませんが、通っていただくことはありえます。本学独自の支援策として、さぬき市内の下宿に在籍期間中は残る学生については、高松駅までのJR又は琴電の通学定期代は全て本学が負担することとしています。期間は限られておりますが、皆、いろいろな出費をしておりますので、かなりの学生が残るのではないかと想像しております。さぬき市での平均下宿代は2万7千円ということで宣伝しておりまして、高松に比べてかなり安い。更に最近は1万円台も結構増えてきたということで、高松とは差が出てきておりますので、こちらに残る学生もおります。その学生がバスを使う可能性がありますので、大学が高松に移ってもバスを使わせていただくことになろうと思います。よろしくお願いします。

会長：ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

委員：一般市民の立場から申し上げまして、今まで会議に出ておりまして、どうなるのかなと思いながらの出席でしたが、都市整備課を中心としたいろいろな関係者の方々の試行錯誤の努力に、資料を見ながら感謝しています。こういう事は、一般市民の方はあまり知らないと思います。今回、この会議に出る前に、公共交通についてど

う思うかと婦人会などで聞きましたら、土曜・日曜に利用する時の運賃が高いとか、他人事で実感があまり聞こえてこなかったです。私も高齢になりまして、文理大とか、今後の高校新設も、その人達にとっては（公共交通は）確かに必要です。けれども、高齢になりましたら結局、免許証を持てなくなる。そうした時のことを、もう身近に感じているんです。そうすると先ほど言われたように、車の維持費をタクシーに変えたらいいのではないかと単純に思います。ただし、志度地区とか造田地区とか公共交通のある地域の近くに住む方は、いろいろな所が近いからタクシー代も大したことはない。でも、空白地帯に住む方は、日頃も簡単に生活している訳ではなく、お金に対する価値観もすごく違うと思うんです。ですから、すごく問題が深くなるなと思いながら、（公共交通機関の）近くに住んでいる人達はタクシーでいいと思い始めています。でも、（バス停や駅やタクシー会社から）遠い方達には、本当に、デマンドタクシーとかは重要だと思っております。

会 長：ありがとうございます。さぬき市の中でも場所によって、その場所の特性によって適したものを考えることが必要であると思います。

委 員：コミュニティバスというのは、とても大切であると思うのですが、65 歳以上で免許を持っていない人が6千人、その人達が対象となるのですか。

事 務 局：働いている世代で車に乗られている人達がコミュニティバスを使うというと、たまに通勤とかで使うぐらいで、日常生活の中、例えば、マルナカに買い物に行こう、という行動にコミュニティバスは使わないと思われます。ですので、コミュニティバスは、基本的には免許証を持っていない方、若い方も含めての生活移動をスムーズにすることを最重視したいと考えております。

会 長：いかがでしょうか。

委 員：正しい答えを導き出せるか分からないのですが、先ほどの委員がおっしゃった中には非常に重要なキーワードが入っていて、今後の問題として、バスを循環させるという発想は正しいのかという事があります。エリアを決めて、おっしゃったように、市街地に近いところはタクシーを使っても、車の維持コストとは大差ないということですけど、郊外の方はその市街地に向かうということにおいての交通手段になる。それを一括してエリアを何ルートか構えて、バスを循環させるという発想自体が既に成り立たないといえますか。放射線状にして市街地と郊外に行くだけのルートを何ルートかもっていて、それを循環させること自体が無駄になる。市街地に近いところは市街地に近いところ、郊外は郊外、これを上手にどう組み付けるか。非常にキーワードになるようなご意見だったのではないかと、広義的にそう感じました。

- 会長：ありがとうございます。正に、コミュニティバスの一部をデマンド型にしていくという方向性のご意見であったと思います。他の地域の状況なども踏まえて、今回のさぬき市のからの提案について、何かご意見はありませんか。
- 委員：まず1点目のスケジュールの件ですが、とにかく分からないのでやってみるしかないと思いますので、チャレンジしながら不具合とか不都合が見つければ、直ちに修正していく、チャレンジしていくというのが大事なと思うので、来年度からできることからやっていくというのがいいと思います。それから簡単に試算していましたが、資料3の4ページ目で見ると、収支A-Bは5千5百万という感じで、ざっくり5千万としていいか悪いか分かりませんが、そうすると、3ページにある乗車数R3年度6万2千人、R2年度5万8千人、これは乗った人なので実人数ではないといえますか、延べ人数ですかね利用者の。同じ人が何回か乗られていると思うので、単純に割ってはいけないかもしれませんが、仮に5千万の赤字という事にして、5万人で割るとなんと年間で千円という金額が出ます。なので、一般財源から考えると使わない人もみんな払う、山間部の人も払うし街中の人も払う。利用している人だけで割ってみるといくらかというのが出てくると、実はそんなに大きな金額ではない。4ページ目を見ますと、収入のところに文理大からの支援金とかも入っているので何とも言えないところはありますが、運賃体系も含めながらどんなサービスでいくかを一緒に考えていくと、もしかしたら何かの解が見えるかな、という気がしています。タクシーもそうですが、一番気にしているのはサービス水準で、収支のことばかり気にして運行バスを減らすところが、最近、結構増えています。使おうかなと思った時に使えないかも、という不安から、車を手放せないという実態に繋がっているのではないかなと思います。そこら辺をどのように考えるかを一緒に考えていかないと、気楽に「タクシーで」とか言っても、さぬき市でも午前中はタクシーが捕まらないのではないかと思います、それでも大丈夫ですか、と思っています。私の実家の辺りだと、先般、父が入院したのですが、（病院まで）タクシーで行くと言っておりましたので、前の日から予約しないとまずいよ、と言いました。今回は、行く直前に電話しても配車してくれたよ、と言っておりましたが、その辺のサービス水準や利便性の確保をどのようにやっているのか、費用負担といったところも合わせながら調整していければいいのかなと思っています。以上です。
- 会長：ありがとうございました。（会議としての）取りまとめですが、令和5年度 of 取組ということで、提案された内容で進めていただければと思いますし、スケジュールとしても、委員がおっしゃられたように、とにかくやってみないと分からないので、令和5年度中に開始していただけたらと思います。実験の内容につきましては、基本的にはこの方向で構わないとは思いますが、運賃の値上げや利用促進、地域の特性とかも合わせて議論いただけたらと思います。

(3) 今後のスケジュールについて

会 長：議題3「今後のスケジュールについて」、事務局から説明をお願いします。

事 務 局：＜説明＞

会 長：今の説明に対して、何かご質問がありましたらお願いします。最後に、事務局からの事務連絡事項をお願いします。

事 務 局：＜説明＞

会 長：それでは、本日はこれにて終了といたします。ありがとうございました。

4 事務連絡

5 閉会